

すくわくプログラム報告書

施設名	田中ナースリー大和保育園
クラス	幼児
日付	2026. 2. 4

1 活動のテーマ

<テーマ>

水・砂・泥 (道具をしまう小屋づくりからダンボール遊びへ)

2 <テーマの設定理由>

砂遊びの道具をしまって、子どもたち自身で出して使えるように小屋を建てる工程を知ること、身近な素材を用意し、子どもたちの創造力を育む。

3 環境の設定

<活動のために準備した素材や道具>

巨大ダンボール、養生テープ、水性ペン、ダンボールカッター

4 探索活動の実践内容 (子どもの姿、声、保育者の関わり)

子どもたち：園庭の一角に、小屋を建てている職人さんに気付く。

「何してんの?」「それなーに?」と職人さんに声をかけている。



保育者：「何してるんだろうね?」

子どもたち：「えーおうちじゃない?」「ひみつきちかな?」

保育者：「はいつてみたいねー」「砂場道具とか、いろいろ入れたりできるかな」

子どもたち：「きょう はいれる?」

保育者：「まだかかろうさだねー」(アトリエスペースに、巨大な段ボール素材を置いておく)

子どもたち：巨大段ボールに気づき、「これ使ってもいいの?」と聞き、使えると分かると園庭に運ぼうとするが、なかなか大きすぎて持っていけない。

一人が運ぼうとすると、友だちと2, 3人で声を掛け合って協力しながら園庭へ運ぶ姿があった。



園庭に大きいダンボールをひろげる。

始めにダンボールの上でジャンプをしたり転がったり、ダンボールのクッション性を感じながらじゃれあい遊びを楽しむ。

「うわー!ひろい!」「おうちだ!」「こっからはいつて!」「くつ ぬぐの?」

興奮した様子もあり衝突に気を付けながら様子を見守った。

「おうちにしよう!」

その後一人の子が家のイメージがわき、家作りが始まる。

「かべつくりたい!」「そっちもって」「たおれちゃう」「このイスをつかってみれば」

壁を作るためにどうしたらダンボールが立つか子ども自身で考え椅子で支えた。

椅子が足りなくなったためテープでくっつけたいと意見が出て養生テープを用意した。



保育者とダンボールを押さえながら角にテープを貼っていく。「わたしが貼るからそっち持っててー」壁をつくっている子もいながら、中ではお部屋空間を満喫中の子もいて、あばれて壁にもたれかかる子もいる。「ちょっとまって！かべが壊れちゃうから…」

保育者：ペンをテラスに置く。 子ども：使ってもいい？と段ボールの家に模様を描きはじめる。様子を見ていた子たちも集まりダンボールいっぱいの模様が描けた。



家が仕上がってくるとタイヤをもち家具代わりにする子もいた。

年長児：「家だったら窓つくりたい！」「どうやって穴をあければいいの？」

保育者：「段ボールカッターと軍手があるよ。使い方を教えるから見ていてね。」

家の窓を作るためにダンボールカッターを使って切る。

保育者がそばにつき手を切らないよう注意して見守った。

「かたいなー」「うまくできない」「わー！まどができた！」

切りにくい部分もあったが全て切り落とすと表情から達成感が見られた。



5 振り返り

砂場用品を収納する小屋を建てている際に、偶然に始まった『ダンボール遊び』大きな素材に出会い、友だちとのじゃれあい遊びから家づくりへと変化があった。ダンボールを見て想像したイメージは、子どもたち同士違ったが、友だちが考えた遊びを取り入れ、何ができるかを考えながら遊ぶ姿が見られた。特にダンボールを立てる時に何度も倒れ、どうしたら立つか子どもたち同士で考える姿が印象的だった。ダンボール遊びの中で協調性も学べたと思う。家の家具がタイヤだけになってしまったので、他にアイテムを用意すれば、より家の環境に近づけ遊びが広がったのではないかと思った。年長児が窓制作に取り組み、異年齢で一つの遊びを楽しむことができ良かったと思う。